

“Made in Tokyo”

## SUMIDA CONTEMPORARY - Preview exhibition

**2018.02.28** (wed) - **3.21** (wed)     **GINZA LOFT 3F**

2018年、メイド・イン・トーキョーの新たなプロジェクト SUMIDA CONTEMPORARY が始動します。300年前から現在まで工場や手工業がとて多いものづくりの町として栄えてきた東京都・墨田区。SUMIDA CONTEMPORARY は、墨田区内のメーカーと日本や世界中のデザイナーとのコラボレーションによって開発される、現代の生活に沿ったプロダクトレーベルと新たなプラットフォームとして発足しました。この度、今秋のブランドローンチに先駆け、プロジェクト紹介をかねて、SUMIDA CONTEMPORARY に参加するメーカーの技術とデザイナーの代表作をご覧いただくプレビューエキシビションを開催します。



## The 'Sumida Contemporary' Project

東京 23 区の一つである墨田区は、隅田川の東に位置し、川を挟んだ反対側には歴史的な町、浅草があります。300 年前から現在に渡り、墨田区は工場や手工業がとて多きものづくりの町です。17 世紀に起きた地震が東京の広範囲の地域を破壊した際、多くの裕福な武士とその家族が中央を離れ、川を渡り、新たに墨田という地域を開発しました。それ以降、多くの職人が武士の住む家の周辺に定住し、彼ら一家が必要とする全てのものを作り供給したことはじまり、その後、明治時代には、隅田川や多くの水路が効率の良い搬送路となり大きく発展しました。

墨田区は墨田のものづくりのサポートとプロモーションを目的として、東京を拠点に「KARIMOKU NEW STANDARD」や有田焼のプロジェクト「2016/」を手掛けているデザインディレクター、ダヴィッド・グレットリを招きました。

スイス出身の彼は、日本在住 10 年から現在の日本文化も熟知しており、ヨーロッパ/日本の両国からのモノづくりの視点、価値観を融合させながら SUMIDA CONTEMPORARY というデザインプロジェクトを進めていきます。

SUMIDA CONTEMPORARY は、墨田区内の 8 社のメーカーと日本や世界で活躍する 11 組のデザイナーのコラボレーションによって開発される、現代の生活に沿ったプロダクトレーベルと新たなプラットフォームです。

このプロジェクトは、伝統と卓越した職人技と創造的かつ革新的なデザイナーのアイデアを集結し、新しい時代の東京、日本の更なるものづくりの発展に貢献します。

製品のお披露目は、2018 年秋を予定しており、日本全国そして、世界へ流通していきます。

## 11Designers

01

**BIG-GAME / ビッグ・ゲーム (スイス)**

オーギュスティン・スコット・ド・マルティンヴィル (フランス)、グレゴール・ジャンモンド (スイス)、エルリ・プティ (ベルギー) ら Big-Game は、スイスのローザンヌを拠点に活動している。スタジオは彼らのデザインを、暖かみがあって機能的、かつシンプルであると評価しており、彼らが製品、アクセサリーのデザインを提供している商品メーカーは、Alessi、Hay、カリモク、無印良品、Lexon、Nespresso、Rado、IKEA、Magis、Opinel、など多岐にわたる。愛嬌がありチャーミングながら、とりわけ扱いやすい彼らの作品は、スイスデザインアワード、the IF デザインアワード、the Wallpaper Design Award、グッドデザイン賞、the Hubolt デザインアワード、Design Preis Schweiz など、数々のデザインアワード受賞するなど評価が高く、チューリッヒの the Museum für Gestaltung や、ベルギーの the Musée du Grand-Hornu、パリのポンピドゥセンターや、MoMA (NY) にも、作品が展示されている。



02

**Carlo Clopath / カルロ・クロパス (スイス)**

スイス人工業デザイナーであるカルロ・クロパスは、ローザンヌにある、ECAL/University of Art and Design で工業デザインを学んだのち、2012年よりデンマークの Cecilie Manz' Office に在籍。翌2013年には、コペンハーゲンのアートワークショップ the Statens Værksteder for Kunst の在住アーティストに選出された。その後は、スイスのアルプスの村に自らのスタジオを構えて活動している。彼は、2014年、Swiss Federal Design Award を受賞、そして2016年には the Swiss Design Award にノミネートされた。



03

**Dimitri Baehler / ディミトリ・ベラー (スイス)**

スイスのビールを拠点に活動するディミトリ・ベラーは、ローザンヌにある、ECAL/University of Art and Design、そして、オランダの DAE (アイントホーフェン・デザイン専門学校) で学んだのち、2014年に自身のスタジオを設立。彼の作品は、大量生産品から、限定品まで広範囲にわたる。万能でありながら、時に自然発生的で、詩的、かつ斬新な彼のデザインは、彼が特に興味を持つ、テクスチャーと色の実質的な応用のリサーチに基づいている。HAYのようなクライアント企業への作品提供の他に、自らプロデュースした陶磁器作品が Wallpaper store など海外向けに販売されている。2013年に、イェールで行われた Design Parade 8 の最終選考まで残り、Swiss Design Award では、2014年、2015年と2度のノミネート経験がある。



04

**Eun Mo Chung / チャン・ウンモ (韓国/イタリア)**

チャン・ウンモはソウル出身。ニューヨークのプラット インスティテュートにて、アートと建築を学びながら、MFA を取得。1987年より、芸術家としてイタリアへと拠点を移し、現在はウンブリアのトッレオルシナに在住している。彼女はこれまでに海外向けに、30回以上個展を催している。その画家としての活動のかたわら、Post Design (前: Memphis Group) のために、手編みのラグのデザインもしている。



05

**Jasper Morrison / ジャスパー・モリソン (イギリス)**

1959年にロンドン生まれ。1982年に Kingston Polytechnic Design School でデザイン学士号を、1985年に Royal College of Art, London でデザイン修士号を取得。今日、モリソンは世界で最も影響力のある工業デザイナーの一人であり、彼の仕事は、ロンドン、パリ、東京など世界規模で展開されている。Vitra, Rowenta, Samsung, Established&Sons, SCP, Capellini, Alessi, Flos など世界を牽引するブランドに向けデザインされた、食器や、電子機器、家具、照明、車両、内装空間、展示スペースなど、彼の関わる作品は幅広い。彼の作品は、多くの国々の主要美術館の常設コレクションに収蔵されている。



06

**Leon Ransmeier / レオン・ランスマイヤー (アメリカ)**

1979年ニューヨークに生まれ。2001年にロードアイランド デザイン学校を卒業。2010年には、ニューヨークを拠点とする工業デザイン会社 Ransmeier Inc. を開業する。彼は、HAY や、Matiazzi, 2016/, Herman Miller や、Maharam などのクライアントを持つ。ランスマイヤーの製造業界とのコラボレーションは、我々が普段使う物に対して、「知覚する」と、「使用する」ととの間にささやかな介入をもたらし、明快さと広い知識の相互作用に基づきデザインされたその作品は、日常生活で起きるストレスを軽減することを可能にする。彼の作品は、サンフランシスコ近代美術館、ニューヨークのクーパー・ヒューイット国立デザイン博物館で展示されており、SFMOMA では永久コレクションにも貯蔵されている。



## 11Designers

07

**Hironori Inada / 稲田博範 (日本)**

日本の大阪を拠点にするデザイナー。バッグ、ファッション、ホームアクセサリから家具まで幅広い製品を、デザイン、制作、販売するブランド "Stitch & Sew" の創始者。さらに、インテリアデザイナーとしても、いくつかの店舗のインテリアデザインを担当している。



08

**Rikako Nagashima / 長嶋りかこ (日本)**

1980年に生まれ。2003年に武蔵野美術大学 ヴィジュアルコミュニケーションデザイン科を卒業後、2014年に自身のグラフィックデザイン会社 village® を設立。彼女の作品は、グラフィックデザインから、アートディレクション、ブランド戦略、など幅広い分野にわたり、札幌国際芸術祭、ISSEY MIYAKE、zucca、D&DEPARTMENT など、多くの大手ブランドメーカーと仕事をしている。



09

**Shigeki Fujishiro/ 藤城成貴 (日本)**

1974年生まれ。大学で経済学部を学んだ後、桑沢デザイン研究所でデザインを学ぶ。1998年より家具メーカー IDÉE Co Ltd にて定番商品及び特注家具のデザインを担当。その後、2005年より自身のスタジオ shigeki fujishiro design を設立。インテリアプロダクト、家具、展示インスタレーションなど幅広く活動する。自身のプロジェクトのほかに、エルメスやアディダス、カンパール、2016 / などのブランドとのコラボレーションも行い、国際的な注目を集めている。アイデアや機能を伝えるためのシンプルでスマート、普遍性を持ったデザインを手がけている。



10

**Sori Yanagi / 柳宗理 (日本)**

柳宗理 (1915-2011) 日本の工業デザイナー。日本と世界で最も有名で最も影響力のあるデザイナーの一人。そのデザインは、伝統的な日本の工芸品の要素を用い、シンプルさと実用性を兼ね備えており、「本当の美は生まれるもので、つくり出されるものではない。」と言う彼の信条を体現している。第二次世界大戦後、ル・コルビジエや、シャール・ペリエの影響を受け、日本企業や海外企業向けに、食器、家具、電化製品、車両から建築用品まで、多くの製品を設計している。彼の作品は、ニューヨーク近代美術館 (MOMA) やそれ以外の美術館の、主要デザインコレクションに多く含まれている。



11

**Wataru Kumano / 熊野亘 (日本)**

1980年東京生まれ。フィンランドの Lahti Polytechnic (2001-2004 BA)、ヘルシンキ芸術大学 (Aalto University, 2005-2008 MA) にて、家具のデザインを学ぶ。2008年に日本へ帰国後、東京在住のイギリス人プロダクトデザイナー、ジャスパー・モリソンの元でアシスタントデザイナーとして働く。ジャスパー・モリソンの元で働きながら、2011年にインテリア、家具、プロダクトデザインの分野で活動するため、自身のデザインスタジオ「KUMA」を設立。2013年より、日本の職人と国際的なデザイナーをつなぐプロジェクト「ジャパンクリエイティブ」のプロジェクトマネージャーとして参加している。



## 8 Manufacturers



### 01 廣田硝子株式会社

Hirota Glass

1899年に硝子食器販売業として創業した、東京で最も古い硝子メーカーである。戦前より伝わる貴重なデザイン資料や、高度な職人の手仕事を大切にしながら、硝子製品をつくり続けている。江戸切子の万華鏡や文鎮など、硝子の可能性を広げる商品開発にも挑戦し、国内外から注目を集める。



### 02 株式会社宇野刷毛ブラシ製作所

Uno Brush

1917年に創業。当時は刷毛の製作を行っていたが、洋風化と共にブラシの製造も行うようになる。毛の特性を知り尽くし、ひとつひとつ手作業で植えられるブラシは密度が高く毛が抜けにくいのが特徴。



### 03 根岸産業有限会社

Negishi Sangyou

神社仏閣の屋根職人であった初代が、園芸金物を製造する会社として1944年に創業。二代目が園芸用ジョウロの製造を開始する。繊細な盆栽を傷めない優しい水圧で散水できるジョウロは、世界中の盆栽のプロが愛用している。



### 04 昌栄工業株式会社

Shohei Kogyou

主に金属プレス加工を行う会社として1947年創業。金型から製品まで自社内で一貫して生産することが出来る。自社ブランドの商品は何百回もの試作を繰り返して、こだわり抜いた商品開発を行っている。



### 05 安宅漆工店

Ataka Shikkouten

建築漆工の職人として国立能楽堂や善光寺等の漆工や文化財の修復を行なっている。近年は漆をより身近に感じてもらうために、生活雑貨の製作にも取り組む。建築漆工で培った様々な技法を生かした、多彩な表現が特徴。



### 06 東日本金属株式会社

Higashinihon Kinzoku

鋳物専門メーカーとして1918年に創業。伝統的な砂型による鋳造で主に建築金具を製造している。鋳造品を熟知した職人が作り出す製品は、加工精度の高さに定評があり歴史的建造物の金物の復元も多く行う。



### 07 株式会社片岡屏風店

Kataoka Byoubuten

1945年の創業以来、屏風を専門に製造している。昔ながらの屏風を作り続けながらも、現代の暮らしに合った屏風の開発にも取り組む。屏風の文化を伝えるための体験教室なども積極的に行っている。



### 08 株式会社二宮五郎商店

Ninomiya Goro Shouten

革製の時計バンドを製造する工房として1946年に創業したレザーメーカー。現在では世界的ブランドのOEM行方、自社ブランドまで手がける。全ての工程を1人の職人が手がける生産方式を採用し、最新の設備と熟練した職人の技術を融合したものづくりを行う。

## Staff

Creative Direction: David Glaettli / ダヴィッド・グレットリ  
 Graphic Design: Sebastian Fehr / セバスティアン・フェア  
 Produce: 墨田区、墨田地域ブランド推進協議会  
 Special thanks to: Fondation Sakae Stünzi, Embassy of Switzerland,  
 カリモク家具

### David Glaettli / ダヴィット・グレットリ

1977年生まれ、スイス・チューリッヒ出身。アート、マスコミュニケーション及び日本語を横断的に学んだ後、イタリア・ミラノとスイス・ローザンヌにてインダストリアルデザインを専攻し、ECAI(ローザンヌ美術大学)を卒業。チューリッヒにて、プロダクトデザインとインテリアコーディネート分野において様々なプロジェクトに従事し、2008年に日本へ移住。その後、大阪でアソシエイトデザイナー兼デザインディレクターとして柳原照弘主催のデザインスタジオに参加。2013年に京都の伝統的な町屋を拠点としGlaettli Design Directionを設立しKARIMOKU NEW STANDARDのクリエイティブディレクターに就任。2016年には拠点を東京に移す。国内外のメーカーやブランドへのクリエイティブディレクション、デザインコンサルティング、デザインマネジメントを行う。主なクライアントにカリモク家具、2016/(佐賀県)、HAY、Maharam、A-Net (Zucca) など

## Event Outline

### Sumida Contemporary - Preview exhibition

SUMIDA CONTEMPORARY に参加するメーカーの技術とデザイナーの代表作をご覧いただくプレビューエキシビションです。SUMIDA CONTEMPORARY で開発される製品お披露目は、2018年秋を予定しています。

会期： 2018年2月28日(水)～3月21日(水)

会場 銀座ロフト 3階 ロフトマーケット  
 〒104-0061 東京都中央区銀座2-4-6 銀座ベルビア3階  
 (すみだ地域ブランド展示会内)

#### 【巡回展】

会期： 2018年3月23日(金)～3月25日(日)

会場： GOOD DESIGN Marunouchi  
 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル1F  
 (すみだ地域ブランド展示会内)

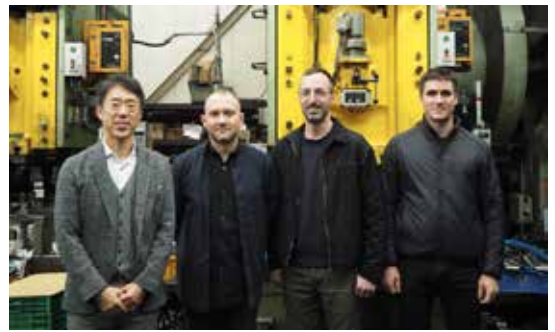
### Talk Event

SUMIDA CONTEMPORARY プロジェクトについて、クリエイティブディレクターのダヴィッド・グレットリ、デザイナーとして参加する藤城成貴氏、「すみだ地域ブランド戦略」など墨田区のものづくりに関わる株式会社メソッド代表・山田遊氏を迎えトークイベントを開催します。本プロジェクトが東京や日本のモノづくりシーンにどのような影響を与えるか、またゲストの皆様が関わられた事例と共にこれからの墨田のモノづくりについてお話いただきます。

日時： 3月24日(土) 15:00～17:00

会場： GOOD DESIGN Marunouchi

登壇者：ダヴィッド・グレットリ (Glaettli Design Direction)  
 山田遊 (株式会社メソッド)  
 藤城成貴 (shigeki fujishiro design)



### Press Contact

本件に関するお問い合わせ、ご取材や画像のお貸出しなどご希望の際は、下記プレス担当までご連絡ください。

デイリープレス 川村美帆  
 東京都目黒区青葉台3-5-33 tel.03-6416-3201  
 mihokawamura@dailypress.org